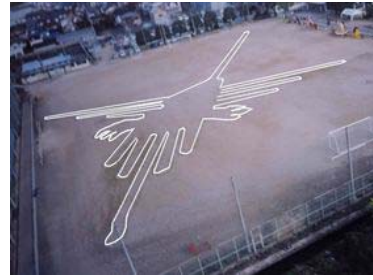


旧岡山県農学校 現高松農業高校地域向け情報誌
備中高松城下町かわら版

http://www.takano.okayama-c.ed.jp/

第 28 号
平成 18 年 12 月 22 日
発行元
岡山県立
高松農業高校
tel 086-287-3711
fax 086-287-3713



今年の文化祭全校製作
ナスカの地上絵『ハチドリ』
80メートル上空から、ラジコンヘリ搭載のカメラで撮影。
(堀家純一氏提供。)
※写真は、見やすいように一部補正しております。

【朝礼会】
命の大切さ
渡邊領治

先般、日本漢字能力検定協会が行った、公募で選んだ「今年の漢字」に「命」が選ばれました。いじめ、虐待、飲酒運転などにより多くの命が失われたことが理由のようです。心が痛みます。「命」と聞いて、相田みつおさんの「自分の番」という詩を思い出しました。
父と母で二人
父と母の両親で四人
そのまた両親で八人
こうして数えてゆくと
十代前で、
千二十四人
二十代前では……？
なんと、百万人を超すんです
過去無量の いのちのバトンを受けている
いま、ここに 自分の番を生きている
それがわたしのいのちです
我々はこの世に生を受けていますが、一人の命の存在は決して一人だけで成り立っているのではありません。気の遠くなるほど長い間の命の営みと進歩・発展の上になり立って今輝いているのです。人類5000万年の命の重たさを受け継ぎ生きていく我々は、皆生まれてくる意味と価値があつて生まれてきています。
そして、生きていくということは、しっかりと次世代にバトンを渡す使命が与えられていることと云うことです。「命」に託された今年のことを願つてやみません。来年も何卒よろしくお願ひいたします。

県立農業高校 1 級・県立農業高校 2 級・県立農業高校 3 級・県立農業高校 4 級・県立農業高校 5 級の生徒が、本校で栽培された野菜を収穫し、調理した。この活動を通じて、食育の大切さを学び、食生活の改善を図る。写真は、見やすいように一部補正しております。



写真は 11 月 21 日 (火) 本年度の学校講演会に講師として東京から来校していただいた東京農業大学・小泉武夫先生。この後、『食べることの意味』というテーマで御講演いただきました。講演の中では農業を学ぶ本校生徒に最高のエールをいただきました。

【放課後】紙面の都合で所属クラスを略号で示しています。(説明は欄外※)
【レスリング部】全国高校選抜レスリング大会 11/25・26 会場・高松農業高校
県予選で準優勝(昨年度は優勝)
【団体】高松農 1-6 倉敷 高松農 5-2 笠岡工業 高松農 6-1 関西 高松農 2 勝 1 敗
【個人】50 kg 級・第 2 位・上岡賢人(1E) / 55 kg 級・第 1 位・高橋啓(2A) / 66 kg 級・第 2 位・谷坂亮輔(1F) / 74 kg 級・第 1 位・西山裕祐(2A) / 84 kg 級・第 3 位・高野 秀(1E) / 96 kg 級・第 1 位・横山幸和(2A) / 120 kg 級・第 2 位・原竜太(2A)。この結果、第 22 回中国高校選抜レスリング大会(1月27日・28日鳥根県松江市)には団体と個人で 6 人(上岡・高橋・谷坂・西山・横山・原)の出場が決まった。この大会で団体・個人とも 5 位入賞すれば、3 年連続 3 回目の全国高校選抜大会(3月27日・29日・新潟市で開催) 出場が決まる。



たかのう学校開放デー・体験講座の様子
11 月 1 日
上・Z 科
A 科 / 上
H 科 / 下
F 科
Z 科 / 下
F 科
H 科 / 下
F 科
A 科 / 上
H 科 / 下
F 科



11 月 17 日 (金) 上海新中高級中学の高校生 10 名と引率の先生ほか 2 名の一行が本校を訪れました。当事業は(財)福武教育財団によるもので、本校生徒とたった一日でしたが楽しいひとときを過ごしました。

【バスケットボール部】
第 59 回バスケットボール新人戦
【男子】
高農 65 - 34 吉備高原
高農 29 - 139 岡山工業
高農 30 - 97 東岡山工業
敗者復活戦 高農 30 - 97 東岡山工業
惜しくも敗者復活戦で敗れたが、3 年連続公式戦初勝利を果たした。
【女子】
高農 54 - 12 瀬戸
高農 24 - 114 就実
高農 37 - 52 岡山城東
代表決定戦 高農 37 - 52 岡山城東
残念ながら平成 4 年以來の県大会ならず。

【ホームルーム】
本校の生徒は毎日 15 分間の掃除をする。本校の敷地は甲子園球場の 1.4 倍、農場やグラウンドを含めての話ですが、その中で 600 人の生徒が分担する。その一つの掃除場所での生徒の話だ。その生徒曰く、「先生、そうじは汚ないところだから掃除するのではなく、きれいなところだから掃除するのだ。同じ意味のようであるが、この言葉は本校が誇れるところだ。以前本校に勤務していた先生や卒業生は、校内が本当にきれいになったと驚く。例えば、トイレのトイレは新装されたことあるがホテルのトイレのようだよ。淡いピンク色と統一され、しゃれた鏡、温水洗浄便座付きの洋式トイレもある。そればかりではない。本校の敷地は掃除場所でも最も難所が校門から正面玄関に植物園だ。毎朝、事務室の齋藤さんと掃除の時間をしてくれ、学校を訪れる大学や企業の方も一緒にこの植物園を営んでくださる。今の季節、週明けの朝は落ち葉を敷き詰めた林道のようになっていて大変である。落ち葉の掃除には有名な話がある。御存知の方も多と思うが、松下政経塾にある寮の朝の掃除がそれだ。寮内の木は、わざわざ葉っぱが落ちる広葉樹が植えられている。落葉の季節などは掃いても掃いても枯れ葉が落ちてくる。ある時、一人の塾生が「どうせまた落ちるのだから、毎日掃かなくていいんじゃないか」と言った。それに対して松下幸之助が、「自分の周囲を清掃できない人が、どうして日本を良くすることができるとか？」と言った。後に当塾の卒業生は、「掃除をするのは小さく目立たないことを毎日黙々と継続する意義を理解すること」だったのだから、何と云うだろうか。

11 月 28 日 (火) 生物工学科 2 年生が(有)パティスリー・ル・ピアジェの有信秀和氏からロールケーキの作り方を学ぶ。この日の実習は午後 4 時頃まで続いた。
12 月 4 日 (月) に行われた農業土木科の校内測量競技大会(平板の部)の様子。3 年生はこの大会が高校時代最後の大会となった。最優秀は増田、薬師寺君の二名だった。全国にはつながらないが、それぞれの未来につながる価値ある大会だ。2 年生は、先にトランシットの部、1 年生は、水準の部とそれぞれ実施した。来年 1 月から、すぐそれぞれ県大会・全国大会に向けて練習が始まる。

